

令和5年度 数学科 授業改善推進プラン

大田区立蒲田中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第3学年がすべての観点で目標値を上回る結果となった。特に、「知識・技能」は、大きく伸ばすことができた。日ごろから授業内で小テストを行ってきている。特に、「計算」の分野では、その知識を発揮することができた。
- ・第2学年は、目標値を上回ることができなかったが、昨年度に比べて、目標値との距離が近くなった。年間を通して学習する習慣が身に付き、数値を上げることができた。観点では「主体的に取り組む態度」が目標値を上回ることができた。

(2) 課題

- ・1, 2学年の「知識・技能」の観点が若干目標値よりも下回っている。小テスト等の演習量を増やして、基本的な知識を身に付けさせるようにする。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第1学年	目標値を下回っている	/	/
第2学年	目標値を若干下回っている	目標値を下回っている (第1学年時)	/
第3学年	目標値を若干上回っている。	目標値を若干下回っている (第2学年時)	目標値を下回っている (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値を下回っている。	目標値よりも若干上回っている	目標値を下回っている。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりも若干下回っている。	目標値よりも若干下回っている。	目標値を若干上回っている。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目標値よりも大きく上回っている。	目標値よりも若干上回っている。	目標値より若干上回っている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・小テストをこまめに実施し、既習事項の定着を図る。 ・習熟度別コースを展開し、一人ひとりの生徒の学力に適した授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どのように考えて解いたかという自分の思考過程をお互いに説明する活動を行い、理解を深める。 ・既習事項と絡めた具体的な場面での問題を提示し、身のまわりの事象を数学的に処理・表現する力を培う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業後に振り返りや授業中に生じた疑問、質問を記入し、既習事項の理解を深めると共に、さらなる学習へと発展させる。

(2) 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・小テストや単元テストを定期的に実施して、既習事項の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結果だけではなく、そこに至るまでの過程を重視する。特に、証明等を教える際には、いきなり書かせる前に、「方針」を示してから取り組ませるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り際には、解き方のポイントをまとめるようにして、授業内容の定着を促せるようにする。

(3) 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度コース別の小テストや単元テストを定期的実施し、知識の定着を図る。 ・授業内での数学的用語を使った説明を行い、知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活用して問題を解くことを苦手とする生徒は多い。多様な問題を扱い、既習事項を活用して問題を解く機会を増やす。 ・途中の過程もしっかり考えさえ、既習事項がどのように活用されているのかを確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元テスト、定期考査、毎時間の授業で学習内容のまとめや振り返りを実施し、次単元の学習へとつなげる。